創刊のことば

本学において専門学部に国語漢文科が設けられてから二十八年になる。この間、卒業生は千五百名を数え、現在の在学生も四百名の多きにのぼつている。教員およびこれらの卒業生、在学生の研究発表機関としては、昭和九年に「立命館文学」が創刊され、今日に至つているが、これはただ今では、文学部の各専攻（哲史文地理）の諸学科の綜合研究誌として、発展しつつある。

そこで、日本文学科においては、かねがね日本文学専門の学会を組織し、機関誌をもつことを企劃しつつあつたが、時たまたま、主任清水泰教授の還暦を迎えるにあたつて、それを記念するとともに、かねての願望を実現させることとなつたのである。

今日、日本民族の当面している現実は極めて重大である。文学の諸問題も決してその圏外にあるものではない。それだけに、その文学の研究にあつても、我々は性急であつてはならない。あらゆる学的方法をもつて、冷静に今日のよつて来たるところを見究め、明日への展望に備えなくてはならない。

我々のなすべきところは多い。したがつて、ただ今の我々の研究が、ただちにそのすべてに答え得るとは思つていないが、一歩一歩、学界に寄与し、国民の明日に関わるところあるべきを念願としている。

ここに創刊の由来と抱負を述べ、あわせて諸賢の御援助と御高評を懇願する次第である。

昭和二十九年六月